自慢の逸品

鹿島台地域発

素材にこだわった手作りの味

【わらじ村長豆】

このコーナーでは、誰かにすすめたくなる伝統的工芸品や物産など、大崎市自慢の逸品を毎月紹介していきます。

鹿島台村時代、「わらじ村長」の愛称で親しまれた鎌田三之助翁。品井沼干拓事業に心血を注いだ鎌田翁は、常備食に炒り豆を巾着に入れて腰に下げていたそうです。「わらじ村長豆」は、そんな鎌田翁の愛称を冠にしたこだわりの豆菓子です。

昭和四十二年に農家のお母さんたちで結成された農産加工グループ「手づくりの会」。当初は主に、転作の大豆を使った味噌作りをしていましたが、自慢の自家製大豆を使って、ほかに誇れるものを作れないだろうかと皆で知恵を出し合い、保存がきいて手軽に食べることができる豆菓子を開発することに。豆の揚げ方や砂糖の絡め方など、納得のいく出来ばえになるまで試行錯誤を繰り返したそうです。そして、味付けには、自家製の味噌やきなこを使うなどのこだわり。こうして昭和六十年に誕生した「わらじ村長豆」は、手づくりの良さとその素朴な味が人気を呼び、親しまれてきました。

会員の高齢化により後継者を探していたとき、地元の「こごたや菓子店」が「伝統を守っていきたい」と引き受けてくれることに。一昨年の秋から「手づくりの会」の味を受け継ぎ、製造・販売しています。

昨年秋には、商標権について学ぶ鹿島台商業高等学校の三年生が「わらじ村長豆」の新商品を企画し、こごたや菓子店の協力を得て商品化しました。新しい味は「ココア」と「抹茶」。地域全体で伝統の味を広めようという思いが感じられます。

素材と手づくりにこだわった伝統の味。口に入れた瞬間、きっと素朴な温かさが感じられるでしょう。

▲「私たちの自慢の味です」と話す、手づくりの会の皆さん。右から、鈴木キクノさん、遠藤みさ子さん、小関ヨリ子さん、斉藤かつゑさん。

▶「伝統の味を大切に引き継いでいきます」と話す「こごたや菓子店」の佐々木美沙絵さん。

▶みそ、ごま、きなこ、抹茶、ココアの５つの味が楽しめます。
1袋 263 円

問 こごたや菓子店　☎ 56-2345

大崎情熱

この場所から僕の音楽を発信していきたい

シンガーソングライター
新谷（しんたに）和人（かずひと）さん（古川）

心の奥に響く歌声。優しく、彩り豊かに、そして強くほとばしるエネルギーを感じる、旅をしてきた人の歌声です。

古川地域小野地区在住のシンガーソングライター新谷和人さんは京都府出身。今から十年程前、それまでのサラリーマン生活にピリオドを打ち、「今しかできない」と、歌をうたいながら全国を回る旅生活を始めました。「訪れた先で、歌わせてもらえるところを探して、投げ銭ライブという形で歌っていました」。昔で言う〝流し〟のような感じだったそうです。

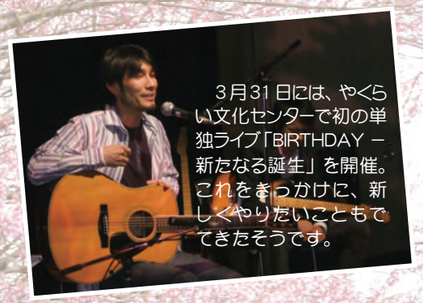
そんな旅の途中に訪れた古川。その時の出会いが縁となり、その数年後には古川に〝住む〟ことになります。「古川を拠点に音楽活動をしてみないか、と誘ってくれた人がいたんです。自分の音楽を認めてもらえたことが何よりもうれしかった。」と振り返ります。

古川に住んで三年。住む場所の環境が新谷さんの音楽に強く影響していると言います。「豊かな自然の中で音楽活動ができるということが幸せ。」と語り、ここでの生活そのものを楽しんでいるようです。

お祭りやイベントなどで歌うこともしばしばで、地域とのつながりも少しずつ生まれています。「何か意味があってここに来たのだと思います。苦しい時期もありましたが、ようやく自分のやりたいことが形になってきました。音楽だけではなく、この場所だからできることをやっていけたらいいなと思います。」と話す新谷さん。

新谷さんの歌を軸に、新しいことが始まっていきそうです。

京都府出身。北海道を旅したことがきっかけで、ギターを片手に歌をうたう旅生活を送ります。4年近くの旅を経て、現在は古川地域小野地区に在住し音楽活動をしています。
新谷さんのホームページ
http://wajin.mydns.jp/



3月31日には、やくらい文化センターで初の単独ライブ「BIRTHDAY －新たなる誕生」を開催。これをきっかけに、新しくやりたいこともできたそうです。